

# 有

三年  
画数 6  
筆順 ノナ有  
オン ユウ・ウ  
フン あひる

成り立ち



手の形をあらわした「ヅ」と、肉のいみをあらわした「月」とを組み合わせて作った字です。

「肉を手に「もつ」ことをあらわした字です。「ものを自分のものとしてもつ」といういみの「もつ」という字です。「所有する」というつかいかたが、この字の本来のつかい方です。

「ものを自分のものとしてもつ」ことは「ものがあある」ことですから、「ある」といういみにつかうようになりました。

「有のヅ」は、古くは右の「ヅ」と同じく「又」であった。それで、筆順が「ノ」の順に書く習慣があり、また、音もユウなのである。ユウは漢音、ウは呉音である。」

使い方

▽村はずれに、強とうが出て、「有り金のこらず、おいて行け」というじけんがありました。

▽ふいに、おきやくさまがやって来たので、有り合わせのおかしと、お茶を出しました。

熟語例

▽有無（有ることと無いこと。有るか無いか。「有無をたしかめておく」などというふうに、つかいます。）

▽有力（力が有ること。「町の有力者は、〇〇さんだ」などというふうに、つかいます。）

▽有効（効果が有ること。「このくすりは、大へん有効だ」などというふうに、つかいます。）

▽有名（名前が通っていること。せけんになが聞こえていること。「ここが有名な浅草の観音様だ」などというふうに、つかいます。）

▽特有（それだけが特にもっていること。「にんにく特有のくさみ」などというふうに、つかいます。）

▽未曾有（これまでいちどもなかったこと。「大正十二年、関東地方は未曾有の大地震にみまわれた」などというふうに、つかいます。）

# 遊

三年  
画数 12  
筆順 ユウ方 游 游 遊  
オン ユウ・ユ  
フン あそびぶ

成り立ち



「旗」の形をあらわした「旗」と「子」と、「道」のある「い」みをあらわした「ユ」とを組み合わせて作った字です。

「旗の立っているまわりを子どもがあるさまわってあそんでいる」ことをあらわした字です。

「あそびたのしむ」こと。また、「たびをする」といういみにもつかいます。

「本字は「遊」で、「遊」は俗字である。「た」と「汗」との会意字で「風に従って翻る旗のように流れに従って泳ぐ」ことをあらわした字である。「水あそび」の意味で「あそぶ」と言う意味に用いられるようになったものである。「旗（年481）参照」

使い方

▽おかあさんと、いもうとと、ぼくの三人で、トランプのばばぬきをして遊びました。

▽「よく遊び、よく遊べ」ということばがあります。勉強ばかりしても、よくありませんし、遊んでばかりいても、いけません。やはり、よく勉強してから、思い切り遊ぶ、というのが一ばんです。

熟語例

▽遊戯（遊び戯れること。また、遊びごと。とくに、うんどうをかねてする遊びのことをいうことがあります。「わたしは、幼稚園のお遊戯の時間が大きかったです」などというふうに、つかいます。）

▽遊園地（遊びのためのせつびがたくさんある、公園。「ぼくとおとうとは、おとうさんに遊園地につれて行ってもらいました。遊園地の中では、ジェットコースターが「ばんおもしろかったです」などと、つかいます。）

▽外遊（外国に旅行すること。「首相がアメリカ外遊から帰った」などというふうに、つかいます。）

▽周遊（あちこち旅してまわること。「四国を周遊して来た」などというふうに、つかいます。）